



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

内におられるキリスト 栄光の希望

日本クリスチャン・アシュラム連盟理事長

横山 義孝



迫害者サウロがダマスコ途上でイエスに出会い、全く変えられて伝道者パウロにされた出来事は、使徒言行録 9 章以下で詳細に記されています。その彼が異邦人伝道に召されたと確信したのですが、これには主なる神の隠された計画があったのです。その中心はキリスト・イエスご自身がキリスト信者の内に宿ってくださる救いの希望の源泉となってくださるということです。

その秘められた神の計画は、創世記 12 章 1~3 節にアブラハムへの祝福の約束としてその淵源があるのです。「わたしはあなたを大いなる国民としあなたを祝福し、あなたの名を高める祝福の源となるように。…地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」と。この契約はモーセに受け継がれ、シナイ山で十戒を与えられると、イスラエルの民は自分たちが罪を犯さないためであるから「わたしたちは、主が語られたことをすべて、行います」(出エジプト記 19 章 8 節)と誓ったのです。その彼らの後の状態はどうであったでしょうか。残念ながらその誓いを守ることができず、罪に罪を重ねる結果になっています。「あなたが正しいので、あなたの神、主がこの良い土地を与え、それを得させてくださるのではないことをわきまえなさい。あなたはかたくなな民である。あなたは荒野で、あなたの神、主を怒らせたことを思い起こし、忘れてはならない。あなたたちは、エジプトの国を出た日からここに来るまで主に背き続けてきた」(申命記 9 章 6~7 節)と記されているのです。ヨシュア記 7 章のアカンの罪をはじめとして、ギデオン、エフタ、サムソンの働きから、ダビデ、ソロモンの時代までイスラエルはその罪に

もかかわらず、神の憐れみのゆえに選民としての命脈を保ってきたのですが、聖なる神はついにこれ以上は忍従の限界だと、その頃の世界の覇者バビロニアによって、70 年間のバビロン捕囚という怒りの大鉄槌を下されたのです。この 70 年間はイスラエルにとって大試練でしたが、その中に神の救いの計画が秘められていたのです。この計画の立役者が預言者エレミヤです。エレミヤは後期預言者中もっとも偉大な人物で、祭司の子として生まれ「心情の預言者」(BC626~586 に活躍)と呼ばれた人で、このように預言しました。「…バビロンに 70 年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。…わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。…」(エレミヤ 29 章 10~14 節)と。

さらにそれに加えて「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。…」(エレミヤ 31 章 31~34 節)

この預言の新約における成就が、イエス・キリストにおいてなされたのです。十字架において贖いの御業を成し遂げて、死して黄泉に下り、三日目に復活された主はペンテコステに聖霊をくだし、預言のごとく弟子たちの魂に宿られ、彼らの魂にご自身を形成してくださる恵みの御業が聖霊によって完了し、栄光の希望の源泉となってくださったのです。

ハレルヤ。(コロサイ 1 章 24 節以下)

霊想 イエス様なら

フィリピの信徒への手紙 2 章 1～5 節

在日大韓基督教会 大阪西成教会

牧師 **金 武士**



以前アメリカや日本で、手首に“WWJD”とのアルファベットが記されたリストバンドをはめている人たちがいました。今もいるかと思いますが、

“WWJD”とは、英語で“What would Jesus do?”（「イエス様ならどうなさるだろう？」）。その意図するところは、それははめた人が現実のいろんな場面で行きづまり、どうすれば良いのかわからないとき、また誘惑に陥りそうなときに、その文字を見て、イエス様ならどうなさるかを考えることによって、自分が守られるためのもので、実際に効き目があるということです。

私たちはとてもイエス様のようにはいきません。けれどもイエス様ならどうされるかと考えながら生きていくなら、無意味なことではない。何よりも自分が守られる。そして自分の信仰が強められ深められることでしょう。

以下に「イエス様なら」との主題の下に三つのことを申し上げたいと思います。

1. イエス様ならどう考えられる？

イエス様はいつも、① 一つの志、即ち神の国と神の義を第一にする志を常に抱いておられました。フィリピ 2:2 に「思いを一つにして」（新改訳では「志を一つにして」）くださいとあります。イエス様はただ神の御心を行い、神の栄光を求められました。私たちも一方で神の御心に逆らう肉の思いや言動にそのつどブレーキを踏み、もう一方で神の御心にかなう正しい行いに踏みとどまろうとせず逃げようとする誘惑に打ち勝ち、その御心にかなうことを実行するようアクセルを踏むこと。② 謙遜な思い、へりくだりの心を持たれたイエス様にならい、フィリピ 2:3 「へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考える。中世のキリスト教会の優れた霊的指導者であったトマス・ア・ケンピスは、自分が他の人よりも優れているとの思いは災いであると言いました。へりくだる人には平安が与えられるが、高ぶった思いを持つと自分の霊的生活が危険にさらされる。それゆえ高ぶる思いにそのつどブレーキを踏む。③ 愛の心、滅びに向かう人々の魂を救いたいとのイエス様の切なる心にならう。フィリピ 2:4 に「めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい」とあるように、罪深く愛のな

い自己中心の私たちの心に働くブレーキを払いのけ、愛の心、救いの手を伸ばそうとする心にアクセルを踏むのです。

2. イエス様ならどのようにおっしゃるだろう？

イエス様の言葉は、聞く人に慰めと望みをもたらしました。コロサイ 4 章 6 節「いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう」。相手の人がどんなに困難な状況であっても、心からイエス様を信じずがるなら逃れの道は開ける、との肯定的な慰めと励ましと希望の言葉を語るのです。

3. イエス様ならどうなさる？

家畜小屋の餌箱にお生まれになり、たらいと手ぬぐいで弟子たちの足を洗い、十字架で私たちの罪の贖いをされたイエス様。私たちにはとてもなしえないことです。しかしイエス様が私たちの救いのためにこのような歩みをされたこと、そして私たちに、自分の十字架を負ってわたしについて来なさいとおっしゃったことを常に心に思い巡らすとき、深い平安と励ましを受けるのです。

最後に、このフィリピ 2 章 1～5 節で言われている「イエス様なら」という心がけは、単なる心がけ、つまり自己暗示のような、キリスト者の気持ちの持ち方、考え方にすぎないのか。それともキリスト者の内にキリストの御霊、イエス様の心そのものが宿っていることによって、イエス様と同じような思いを抱くようになっていくのか。結論的に言うと後者ではないでしょうか。そのことはガラテヤ 2 章 19～20 節に「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」と言われていることから分かります。しかしその後が続いて「わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです」とも言われています。「あーあ。やっぱり信仰の問題なんでしょう。信心、心の持ち方なんでしょう」と思われるかもしれません。キリスト信仰は霊的、神秘的、体験的、実感的なものであります。しかしそれも信仰によるのです。

私は何を言おうとしているのでしょうか。それは、キリスト者の中には、神秘的な霊的体験を持ったり、体験的、実感的な側面を強く持つ人がいます。しかしそうでない人はもっと多い。つまり特別な霊的体験の実感の有無にかかわらず、イエス・キリストを信じる信仰がありさえするなら、そして「イエス様なら」という思いを日々の生活の中で大切にしさえするなら、主の御霊により、自分の信仰が強められ深められ、自分の霊肉の家族が守られ、キリストの証し人として、信仰のない人々を救いに導く者にされ、実を結ぶ者とされていくのです。

アシュラムに参加して

牧之原ビジョン教会

信徒 鈴木 光子



「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」

詩篇 46 篇 10 節

アシュラムについては聞いておりましたが、参加した

ことはありませんでした。2011 年、横山勲師夫妻のお誘いで初めて参加させて頂きました。震災のため静岡に一時避難していた時で、これからの道を示して頂きたいという思いで参加させて頂きました。

アシュラムに参加して良かったことは、周りに気を遣うことなく、同じ思いで、それぞれが神様と真摯に向き合うことができるということでした。その中でも特に静思の時は神様と正直に向き合い、みことばを通して静かに神様に聴く機会を与えられ感謝でした。普段祈ってはいるのですが、なかなか落ち着いた時間を取れないでいました。この静かな時間を与えて頂いたことを感謝致します。

地震で大きな被害もなく、原発 1 基の爆発でも避難は考えませんでした。3 基の爆発で避難を考えざるを得なくなりました。

「屋外に出ないように」と放送があり、食料、ガソリンがあつという間に買えなくなり、水道が止まるとは、療養中の主人との生活はとても出来ないと思われました。教会の兄弟姉妹は各々が自分で決断し、高齢者は家族に託しました。

そんな時、息子、娘が避難を一生懸命考えてくれました。他の方に同乗させて頂く道も考えましたが、無理と思ひ断念した時、深夜息子が車で迎えに来てくれました。すぐに身の回りを整え、家を出ました。ここまですを思い返すと、神様が全て準備し整え導いて避難させて頂き下さったと本当に感謝致しました。

出て行く道すがら、後ろを振り返りました。その時私の心に「もうここに戻ることはない」という声が聞こえてきたのです。戻ると思っていたので、不思議な気持ちでした。と同時に「ああ、ここに戻ることはないんだ」という気持ちが湧いてきて次々と消えていく景色を追いながら、「ああもうここを出て行くのだ」と不思議に納得する気持ちになりました。

息子の所は住める状態ではなく、次の日娘の家に避難しました。しかしここも自分たちが暮らしていく場所ではないと思われました。そうしているうちに会社から主人が呼び出され、いわきに帰ることになりました。3 週間が過ぎていましたが、町はどこも静まり返っていて、生活の状況も変わっていませんでした。

帰った後、静岡の妹から「避難者に安く貸してくれる住宅があるから来ないか」という電話がありました。教会、妹夫婦もいるという安心感で、直ちに静岡に避難することを決め、救われた思いで引っ越しして来ました。

神様の御声は聞いたものの、いわきを去る決心も、静岡に移る決断もつかないままでした。ここで神様にはっきりと道を示して頂きたい、そんな思いで静思の時を持ちました。

詩篇を読みながら祈っていく中で、16 篇 6 節「測り縄は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。」このみことばが飛び込んできました。私は驚いて「ここは私の望む所ですが、ここでいいのですか」と聞き返していました。その私に神様は平安を与え、重荷を下ろして応えてくださいました。神様がここに導いてくださった、ここに住んでいいのだと喜びと共に確信が与えられ、前に進む決心が出来ました。静思の時は、「わたしこそ神である」ことを知る恵みの時となりました。

その後たくさんの問題を乗り越え、70 歳の身で遠距離を引っ越すことが出来たのは、ただ奇跡としか言いようがありません。祈りの時を与えて望む港に導いてくださった神様の恵みに感謝しています。アシュラムのたびに神様に期待し参加させて頂いております。アシュラムのためにご奉仕して下さっている方々に心から感謝致します。

私とアシュラム

日本基督教団 碑文谷教会

信徒 田中 百合子



私がアシュラムを知ったのは、父、大石嗣郎(注・連盟 3 代理事長)が国際アシュラム、日本アシュラムに関わっていたからです。父は大正 11 年、祖父母の大石繁治と花子が米国カリフォルニア

州アラメダのヴェナビスウ教会牧師となり、その次男として誕生しました。昭和 8 年、満州事変をはじめ日本を取り巻く世界情勢を考え、両親と 3 兄弟は帰国、大分に住みました。昭和 11 年には東京の碑文谷教会の牧師赴任となりましたが、父嗣郎は昭和 18 年 11 月、学徒出陣でフィリピンへ派遣、6 月セブ島で戦傷、昭和 21 年、復員しました。その後、パルプ協会に入社、GHQ の紙パルプ課に入り、結婚。娘の私が生まれ、昭和 30 年、祖父の繁治が病氣となり、神学校へ入学。昭和 42 年牧師、付属幼稚園園長。言葉に不自由しない父は、世界中へ出かけ、活動しました。

父がアシュラムの責任を負う中で、箱根で行われていた関東アシュラムの奏楽者が少ないので、手伝

いを頼まれました。それ以来、私に奉仕の場が与えられました。

教会付属幼稚園で週 3 日手伝っていましたし、2 人の子育て中、主人や母の協力で、アシュラムに参加できました。最初は朝早い静聴の時に、起きられるのか不安でした。担当の方が選んだ 2 曲の讃美歌を伴奏、2 日目のプログラムは賛美と証し、聖歌隊として、集まった方々とのパート練習、楽しい時間でした。会場での早朝や夕方、散歩をすると、鳥の声、山の緑、天候により近くのゴルフ場のあたりに朝霧が出て、とても幻想的です。玄関棟のコスモスは大きな花卉、色鮮やかに咲いています。このプログラムに参加する方、助言をしていただく方も、全国から来られて感動します。3 日目の充満の時、みなど手をつなぎ、一つの輪になり賛美をするときは、感動のあまり涙が止まらないことが何度もあり、充実感を味わい、霊に満たされた時だったと、心が澄み渡って帰宅します。

また毎日の暮らしが始まり、日曜の聖日礼拝に出席、奏楽の時は、讃美歌や、前奏曲、献金の曲を練習する日常になります。

福岡一日アシュラム(アシュラムセンター主催)

編集委員 石井 寛

コロナ禍でアシュラムが開催できない中、アシュラムセンター主催の「福岡一日アシュラム」に参加した。

福岡の中心、天神のビル群の中にある日基福岡中部教会で、去る 7 月 18 日行われた。久しぶりに主幹牧師の榎本恵師とお会いし、6 時間余りの限られた時間の中でアシュラムの恵みを味わった。

オリエンテーションで語られた詩編 42 編(注・聖書は新共同訳聖書が用いられた) 2 節「涸れた谷に鹿が水を求めるように…」の言葉に心が留まった。長年新改訳聖書を使用している者として、「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように」(新改訳 2017)を「とうとうと流れる谷川の水を求める…」とイメージしていた。しかし、訳を変えて見ると、水は流れているどころか「涸れている」というのだ。

「ロシアとウクライナの戦争が、いまだ止まず、世界は第 3 次大戦の脅威にさらされ、コロナの感染も治まりかけたのかと思いきや、新たな変異株が増え、ガソリン価格の

急騰、物価高が生活をじわじわ苦しめ、教会もようやく通常の礼拝が始まったとはいえ、出席者の減少が止まりません、今や政治も、経済も、そして私たちの教会もただならぬ混沌の中にあるのです」と榎本師は語っています。

毎日流されるニュースや情報は黙示録に書かれているサタン(サタン)の働きのようなことばかり。しかし、私たちは嘆くのではなく、すべてを治めておられる主を信頼し、主を求め、主に従う信仰を保っていきたい、と願っている。

昼食をはさみ、午前と午後に開かれた「静聴・恵みの時」はグループごとに分かち合いと賛美と祈りをし、民数記 6 章 22 節～「…主が御顔をあなたに向けて…」と祝祷の言葉をもって充満の時を終了した。

連盟のアシュラムとはプログラム上では少し違っているが、初めての方々と交わりを共にできたのも、主が中心のアシュラムであったからできたのだと感謝した。



アシュラム開催中止・延期のお知らせ

予定しておりました下記アシュラムはコロナ禍にあつて中止、延期となりました。

- 横浜岡村教会 7 月 9 日(土)～10 日(日)
- 九州アシュラム 9 月 18 日(日)～19 日(月)
- 第 58 回関東アシュラム 9 月 19 日(月)～21 日(水)

編集後記

コロナの感染拡大は減少傾向にあるとはいえ、まだまだ油断はできません。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

九州アシュラムは 9 月 18～19 日に行う予定をしていました。会場に行つて最終打ち合わせをし、ホテルの予約もしました。その後、急に感染拡大となりやむなく中止を決定しました。3 年ぶりにアシュラムの兄弟姉妹と会うのを楽しみにしていただけに残念です。各地のアシュラムもそれぞれ苦勞をされながら、工夫して実施されたり中止を決定されたりしています。一日も早く対面でできることを願っています。(編集責任者 岡山敦彦)

事務局より

機関誌「アシュラム誌」のご拝読とお祈り、ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。アシュラム集會も相変わらずのコロナ禍の現在、感染の終息するまでアシュラムを控えているのが現状のようです。教会は毎週の礼拝を懸命に感染対策に取り組みつつ、対面礼拝とオンラインでの家庭礼拝を可能にする体制となっております。

私事ですが、関東アシュラムの集會を楽しみにしていただく皆様と、直接お目にかかれる日を心待ちにしておりました。しかし、残念ながら延期となっております。皆様、再会の時までどうかお元気でいてください。皆様の上に、天父のお守りを心からお祈りしております。

なお、アシュラム誌の読者の中で、ご居宅、発送停止のご意向等がありましたら、事務局までご連絡ください。(貴村)

☆メール: TENMONKYOUKAI7@outlook.jp
☆TEL: 03-3385-7491

アシュラム予告

- 牧之原ビジョン教会ミニアシュラム
日時・9 月 20 日(火)
助言者 貴村かたる師
- 浦和別所教会
日時・9 月 24 日(土)～25 日(日)
助言者 西海満希子師
- 関西アシュラム
日時・10 月 10 日(月)
場所・大阪 OCC
助言者・島隆三師
- 第四回志木教会アシュラム
日時・10 月 22 日(土)～23 日(日)
助言者・西海満希子師
- 函館栄光教会
日時・10 月、または 11 月予定
- その他、開催が予定されていますアシュラムがありますなら、お知らせください。